

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

音楽大学への進学は、高校入学当初から決めていましたが、これと言った将来像が描けない
 ままでした。そこで総合大学である同志社女子大学を多角的な視点から音楽を学ぶこと、将来の幅を
 広げられれば、と思い受験を決めました。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。 (※音楽学科入試課題については、『2018年度
 音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。)

[1学期]

まだ同志社女子大学への受験は決めておらず、高校の実技課題、国公立受験の課題曲に
 取り組んでいました。

[夏休み]

夏休みに入り、本格的に同志社女子大学の情報を集めました。
 まだ対策はしていませんでしたが、コンクールや演奏会への参加を心がけ本番慣れを目指しました。

[2学期～入試直前]

12月頃に課題曲を決め、冬休みに楽典の過去問にとりかかりました。
 おがたいことに、音楽高校出身のため、フォルコーンゲンはソルフェージュの授業内に、
 楽典は音楽理論の授業で一部過去問をとりあげていただいたり、特に受験対策は
 していませんでしたが、習慣的に学ばせていただいていたので、自信をもって受験に挑めました。
 また12月には大学の冬期講習を受講しリスニングを受けました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

同志社女子大学におおせ国公立受験も控えていたためどうしても勉強に時間をとられしまい、
 充分な練習時間を確保するのが難しく、学校行事は不参加が多かったこと。
 スマートフォンについては使用時間を決めていました。
 こんな張りつめた状態が続いたので、当然スランプ(毎日弾きたくない)と思う日が増えました。
 そんな時はあえて課題曲から離れたいので手元にある楽譜を広げ、違う曲を弾くといった
 リフレッシュつても楽譜からは離れない生活を試みました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は人一倍緊張してしまう性格で2学期に入ってからはずっとピリピリした状態が続いていました。
 きと演奏にもそれは表れていました。入試はどなたでもパフォーマンスを維持できるかにかかっていると
 思います。適度な息抜きを大切に本番に挑んでください。

一般入学試験・音楽実技方式
 音楽学科演奏専攻